

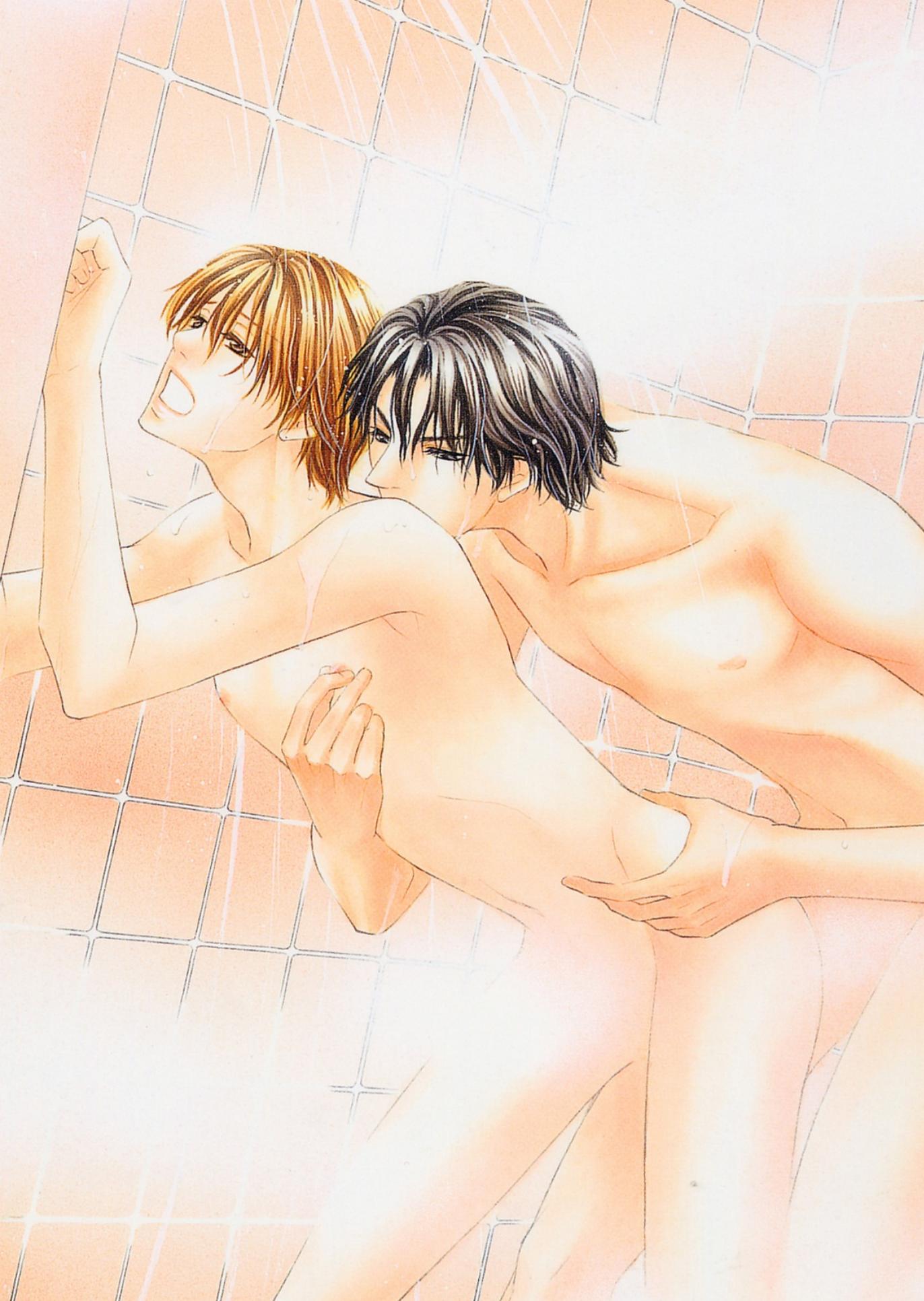


外交官の 恋のお相手

森本あき Aki Morimoto

Illustration

水貴はすの Hasuno Mizuki



外交官の恋のお相手

《立読み版》

森本 あき

イラスト 水貴 はすの

「運命なんて、自分で作るもんだろ」

自信満々に言う相手に、悔しくなつて。

こんな強引な出会いを、運命、と言う凶々しさに腹も立って。
なのに。

自分を包む腕が温かいから。

そつと、目を閉じた。

トクン、トクン、という、心臓の音を聞きながら。

「いや、だからですね」

ひやまりん
松山鈴は、必死で食い下がった。なのに、薄いカーテンの向こうにいる、顔も見えない国王の答えは、
たった一言。

「ノウ」

鈴はこっそりとため息をついた。自分はいったい何度、この、ノウ、を聞かされただろう。

「…分かりました。では、またおうかがいします」

鈴はそう言うと、立ち上がった。これで、今日の仕事は終わり。

ノウ、と言ったあとは、国王はいつさいしゃべらなくなる。以前はねばってみたりもしたけれど、ほとんど毎日のように来ていたら、そんなムダなことをする気力もなくなった。

暑いところにいると、人間はどんどんだらけていくものなのかもしれない。暑さに、思考能力を奪われていくような気がする。

それとも、それは仕事を放り出しそうになっている自分への言い訳だろうか。

宮殿を出ると、直射日光がカツと照りつけた。鈴は車まで急ぐ。日中の気温が四十度を超す場所で、長く外に出ていることは命取りになりかねない。

ホット、ホッター、ホットテスト。

暑い、という形容詞に、比較級と最上級がある意味が分からない、と中学のときは思っていたけれど。本当に、その三つの言葉でしか表せない気候があるのだと、こっちに来て、鈴は初めて肌で感じた。暑い、以外の単語を使えない。そのくらい、気温が高い。

車に乗ってエンジンをかけると同時に、エアコンから涼しい風が吹いてきた。鈴は、ほっと息を吐く。車のエアコンを発明した人に、心から感謝したい。

広い道路にはほとんど車もなく、たまにすれ違う程度。歩いている人も、ごくまれに見かける。日射病にならないのだろうか、と毎回心配してしまうけれど、こういう気候のところでは生まれたら、それなりに体が順応するのかもしれない。

車を飛ばして三十分。かろうじて街と呼んでもいい場所に建つ小さな建物に、鈴は入った。電話番号を置いてくれた隣の店のおばさんが、顔を上げて、なんだ、という顔になる。

「え?」

早口で何かを言われて、鈴は聞き返した。このお婆さんは英語が話せるものの、なまりがきついたために、ゆっくりしゃべってくれないと、何を言っているか分からない。

「ノー、フォンコール」

電話はなかった、ということか。まあ、それも当たり前だろう。

「サンキュー」

鈴も、伝わるようにゆっくりと話す。お婆さんにはこっと笑うと、手を振って出て行った。鈴が宮殿に行っている二時間ぐらいの間、彼女がここで電話番号をしてくれているのだ。少額ながら、お金も払っている。

鈴は部屋の中央にある椅子に座った。やわらかいフォルムの、木でできた椅子。そして、同じ素材で作られた机。暑い国には、こんな机と椅子がよく似合う。

その机の上に乗っている旧式の黒電話を、鈴はじっと見つめた。ここに来て以来、それが鳴ったことは一度もない。鳴らない、と分かっているのならば、設置しなければいいようなものだけれど、そういうわけにもいかないのだろう。この電話が、唯一日本との接点であり、鈴の命綱ともいえるものなのだから。

「なーんで、こんなことになったんだろ」

鈴はぼそりとつぶやいた。

宮殿から帰ってきたら、することは何もない。ただ、ぼーっとしてるだけ。日が暮れば、借りている家に戻る。

鈴は受話器を取り上げた。ツー、という発音音がしているから通じてはいる。だけど、こちらから電話をすることができるのは、自分の任務を終えたときだけ。そして、その任務が終わる日なんて、本当に来るのだろうか、と思うぐらい膠着^{（じょうちやく）}状態で。

「俺、このままここで暮らさなきゃなんないのかなあ…」

鈴はうつむきたくなくて、上を向いた。

後悔なんて絶対にしない、と誓ったはずなのに、してしまいそうな自分がいやだった。

※続きは製品版でお楽しみ下さい。

外交官の恋のお相手

《立読み版》

発行日 2012年3月30日

著者名 森本 あき

イラスト 水貴 はすの

発行所 【MILK-CROWN】

株式会社水晶院

<http://www.milk-crown.net/>

(C) Aki Morimoto 2012

※本著作物の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。